

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆家	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
嚙	ソン うわさ 人①		嚙 大徐・口部				嚙 嚙 嚙 信行神師碑 五経・口部 豊替指歸		
噉									
噉	ゴウ かみ ①								
噉	ゴウ かみ かむ ③								
器	キウツワ 教4 常①		器 器 作册鬲 睡虎地秦簡 大徐・器部	器 器 馬王堆 張遷碑 智永千字文	器 器 智永千字文	器 器 元暉墓誌 温彦博碑	器 器 干祿字書 瑠玉集	器 器 伊内親王顯文 再教農業全書	器 器 陸軍
器	キウツワ ②		器 器 師器父鼎 郭店楚簡	器 器 馬王堆 禮器碑		器 器 元暉墓誌 五経・大部	器 器 豊替指歸		器 器 干祿字書(通)
器	キウツワ 人③		器 器 散氏盤 信陽楚簡	器 居延漢簡		器 中比干墓文	器 郭鼎・鼎器		
噉	ショク 常①			噉 居延漢簡		噉 鄭義下碑			
噉	ショク ②				噉 初月帖	噉 郭義下碑	噉 噉 請来目録 豊替指歸		噉 現代中国
噴	フン ふくはく 常①		噴 大徐・口部			噴 金光明経②	噴 噴 干祿字書 伝空海 新撰類林抄		噴 開化往来 現代中国
鋪	ホシク みせ 常①		鋪 鋪 金文 春秋金文 大徐・金部	鋪 馬王堆		鋪 興福寺斷碑	鋪 鋪 聖武天皇雜集		鋪 現代中国
鋪	ホシク みせ ①						鋪 鋪 請来目録		
鋪	ホシク みせ ②						鋪 興本國使啓		

【嚙】JIS2004で「嚙」から「嚙」に例示字体が変更された。また2004年に人名用漢字に追加された。

【器】大きく分けて中央が「犬」「大」「土」「工」「ユ」と5つの字体がある。「大」では意味が通じないという意見もあるが、犬の象形が「大」となることもある。「大」が水平に開脚

すれば「土」になり、「土」の縦線が上に出なければ「工」になり、「工」を早書きすれば「ユ」になる。「土」「工」は漢代にはすでに使われている。もしかしたら生け贄の「犬」の代わりに、呪具の「工」を使う字体があったのかもしれない。

【噉】康熙字典に「噉」と「噉」が別々に載っている。漢字要

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
	嚙 嚙 嚙 消息往来 口12						嚙	嚙				嚙 現代中国
	噉 書札重宝記											
	噉 噉 噉 黒流本朗詠 華厳略被甲碑 口15						噉 噉	噉				噉 現代中国
	噉 噉 三寶絵詞 節用											
	器 器 器 器 器 器 器 器 器 器 伊内親王顯文 再教農業全書 口13						器 器 器 器 器 器 器 器 器 器	器 器	器 器	器 器	器 器 干祿字書(通)	器 現代中国
	器 器 器 藤原行成 礼容筆粹 口12						器					器 江戸五経(説)
	噉 和歌体十種											
	噉 元暦萬葉巻		噉 噉 噉			属	噉 噉	噉				噉 現代中国
			噉 口12				(噉)					
	噴 節用 口13		噴 噴 噴				噴 噴 噴 噴	噴 噴	噴 噴	噴 噴	噴 噴	噴 開化往来 現代中国
	鋪 鋪 鋪 鋪 屏風土台 節用 金7					鋪 鋪	鋪 鋪	鋪 鋪	鋪 鋪	鋪 鋪	鋪 鋪	鋪 現代中国
	鋪 鋪 粘葉本朗詠 貴家調宝説編					鋪 鋪	鋪 鋪					

覧に「噉」の別体として「属」が載っているが、実際に使われていたのだろうか。

【鋪】説文では金部に「鋪」が載っている。康熙字典にも「鋪」しか載っていない。現代中国では偏を「金」の草書体にして

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆書	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
嘲	チョウ トウ あざける からかう 新②		𠵽				嘲		
噸	トン ①								
噤	はなし ①								
四	シよつ よつ よん 教1 常①	三四四	四	四	四	四	四	四	四
		三四四	四	四	四	四	四	四	四
		三四四	四	四	四	四	四	四	四
囚	シュウ とらえる 常①	囚	囚	囚	囚	囚	囚	囚	囚
因	イン ちなる ちなむ 教5 常①	因	因	因	因	因	因	因	因
回		回	回	回	回	回	回	回	回
回	カイ エ まわす まわる かえる 教2 常1	回	回	回	回	回	回	回	回
回	②								

【因】泰山刻石と説文の字体がことなる。「口」の中の「大」は開脚すれば「土」になり、頭を省けば「工」になり、早書きすれば「コ」になり、さらに「コ」に変化する。日本に伝わった字体は「因」と「回」。干禄字書では「因」を〈正〉、「回」を〈俗〉とする。干禄字書では「大」の右払いを止めて

いるが、五経文字では払っている。狭い四角の中で払うというの是不自然。教育漢字も払っているが、手書きの字体を教えるのなら再考した方がよい。
 【回】江戸版本では「回」が多く使われている。康熙字典は「回」を本字としている。明治の漢字も「回」を本字としてい

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
嘲	嘲	嘲	嘲				嘲	嘲				嘲 嘲 IS2004 以前 現代中国
			噸				噸					噸 現代中国
			噤	噤	噤		噤	噤				噤 国字
四	四	四	四	四	四		四	四	四	四	四	四 北周・華嶺 現代中国
			四									四 信陽楚墓
			四									四 包山楚簡
囚	囚	囚	囚				囚	囚	囚	囚	囚	囚 居延漢簡 現代中国
因	因	因	因	因	因	因	因	因	因	因	因	因 干禄(俗) 現代中国
			因									因 信陽楚墓
			因									因 風信帖
			回									回 回 陸軍(正字) 現代中国
			回									回 陸軍(古字) 干禄(俗)
			回									回 陸軍(別体)

る。陸軍幼年学校用字便覧では「回」を正字、「回」を古字としている。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆家	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
団	ダン トン まどか まるい								
團	人②								
圀	イ かこう かこむ								
圍	②								
囡	コン こまる くるしむ								
囧	スト はかる								
圖	②								
固	コ かたい かたまる かためる								
国	コク くに								
國	人②								
圀	②								

【団】口の中に「専」が正字体、「専」が通字体、「寸」は略字体。正字体も楷書と明朝体では字体が異なる。

【圀】正字体「圍」の構成要素「章」について。単体の漢字としては10画だが、部首では「圍」のように、下部を3画とし、9画の画数に分類される。ところが常用漢字の構成要素

になる場合は、「偉」のように下部を4画とし、画数は10画として数える。これが我が国の施策である。康熙字典では一貫して9画に数える。

【困】「くにがまえ」という囲まれた空間の中で「木」に右払いがあるのはおかしい。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												団 現代中国
												围 護身往來 現代中国
												困 現代中国
												图 干祿(俗) 現代中国
												圖 陸軍別字
												固 現代中国
												国 奈良・王勃詩序 現代中国
												國 上代・賢愚經 平安・元暦萬葉集
												圀 平安・松葉本朗歌 江戸・五音韻鏡

【国】「口」の中に「或」が正字体。中国の南北朝時代に「口」に書かれる。「口」は二つの点にくずすことがある。「+王」が見える。これは領土の中に王様がいるというような、会意による字だろう。一方、「口+玉」は平安時代に見える。この「玉」は「或」の草書からきた字だろう。「口+八方」は則天文字。「或」の「口」は手書きでは「△」や「ム」の形